

日付：2020年2月7日

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）プロジェクト（2018年）の  
実現に向けた取り組みに関する外部評価報告書

氏名： Saniye Gülser Corat

2018年のダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）の実現に向けた取り組みの結果に関する報告書内の「事業目標の達成状況」の項目1～6に関する外部評価結果を報告します。

1) 女性研究者採用比率 30%以上達成

意見：

神戸大学が採択した、女性研究者採用率 30%以上の達成に向けた取り組みは現実的だと思われま。30%という成果目標は 2018 年には達成されなかったものの、達成された実績（図 1 を正しく解読している場合）は 25.7%であり、正しい方向への着実な進歩を示しています。

2019 年の成果目標を達成するために、採択された方策を素早く評価し、前年のボトルネックの対処を目的とした措置を講じることを視野に入れて、これらのボトルネックを特定することに意義があるかもしれません。

2) 上位職登用比率（昇任比率）の向上

意見：

神戸大学が策定・実施した取り組み、すなわち日本国外のその他の機関との連携を確立し、短期研究（1 週間から 1 か月）および中期研究（2～12 か月）を行う機会を女性研究者に提供することにより、女性を上位職に昇任させるという意図した成果を生み出したように思われます。実際、22%という女性の昇任率は、20%という成果目標を上回っています。

2018 年におけるこうした成果は非常に励みになるものであり、策定・実施した取り組みの有効性を示しています。目標を現実的な範囲に留め、期限を設けることで、成果目標を実現し続けることが重要です。

3) 次世代を担う若手研究者の拡大

意見：

神戸大学が採用した、若年研究者数の増加を目指す二重戦略は、革新性と効率性に非常に優れています。世界中の研究者 24 名を招聘してセミナーを実施することで、日本国

外のその他の機関の経験から学びを得て、神戸大学の全教職員と全学生にこの学びの経験の環を広げることに至った、この戦略の側面は、経験を共有すると同時に、大学全体の構成員にロールモデルを提供するための非常にコスト効率の高い方法のように思われます。

一方で、合同研究プロジェクトのために若年研究者を神戸大学から別の国に派遣することも、他者の経験から学んだり、日本国外のパートナーと連携したりするための非常に効率的な方法です。

専門家同士の人脈作りは、学術研究のつながりや、グローバルな人脈を築いて世界に情報発信するために重要です。

#### 4) ダイバーシティ環境の充実と学外への波及

意見：

この目的の3つの要素は、非常によく考えられています。私は、ダイバーシティフォーラム キックオフシンポジウムに参加する榮譽を得ました。そのときにお伝えした通り、私は神戸大学のダイバーシティ推進宣言に感銘を受けましたので、この宣言に付随するアクションを全面的に支持します。

民間セクターは科学研究の開発と適応において重要な役割を担っており、相互に利害のある分野で強い連携を築き、協業することがこれまで以上に重要になると考えています。人類の利益のために、私たち全員が持続可能な方法でプログラムに従事することが最善の方法です。

#### 5) 本事業の特徴的な取組

意見：

この目的に向けた取り組みの両方が、相互に密接に関連しており、かつ重要です。研究者全員、特に女性研究者にとって海外赴任する際の障害の1つは、新しい環境でのサポート体制の欠如です。自国以外の国や機関で快適に過ごしてもらい、サポートされていると感じてもらうために、神戸大学から海外に派遣された研究者に同行するという同大学の男女共同参画推進室の取り組みは、専門家としての有意義な時間と個人の幸福を保証するための重要な要素です。

ダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（包括）は、あらゆる専門的な環境において非常に重要な概念です。神戸大学による、学术界から国連機関までの多様性に富んだ環境における進歩と方策の最新情報を常に把握するための取り組みは、称賛に値するものであり、感化を与えます。

#### 6) 本事業における課題

意見：

外部支援を必要としない資金調達など、運用面や活動を重視して計画を立てた方策が、成果・業績や学んだ教訓に則しているように思われます。これらの取り組みの導入について読んで知ることを楽しみにしています。

#### 7) 事業全体に対する意見

神戸大学のダイバーシティ（多様性）に対するビジョンと将来を見据えた具体的で影響力のある行動に対し、賛辞の意を示したいと思います。

多くの機関が、D&I、すなわちダイバーシティ（多様性）とインクルージョン（包括）のポリシーとアクションの導入を目指すもD&Iの青写真がない中で、神戸大学がこの分野で実践するポリシーとアクションから得る経験と学びは、何よりも歓迎されるものです。世界中で行うプレゼンテーションの中で、こうした優れた取り組みの例を紹介できることを光栄に思います。